

事務事業名 明石緑が丘公園管理事業		所属部 産業観光部	所属課 産業観光総務課
総合計画体系	施策名 <11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G 産業観光総務G	課長名 吉野 聡
	基本方針 <033>豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名 渡部聖琉	電話番号 40-1093 (内線) 2421
	重点テーマ 重点テーマ外	会計科目 013001 051505	大事業名 農業施設管理事業 中事業名 明石緑が丘公園管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①市民 ②市外からの入込客	①②利用できる

③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)

事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	地域住民を主体とした、スポーツ/レクリエーション/芸能や趣味活動/農林業体験実習により農業に対する理解を深めると共に、地域内外の交流促進を図ることを目的とし設置した施設。 明石ふれあい館、コテージ、ログハウス、レクリエーション広場等の施設管理運営 ・直営施設(第2駐車場、調整池等)の維持管理 指定管理者 合同会社明石総合企画 指定管理期間 令和6年4月1日～令和9年3月31日(3年間)
--	--

④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動) ⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)

①指定管理者との基本協定及び年度協定締結 ②指定管理料支払い ③各月利用状況報告受理 ④モニタリング実施 ⑤直営施設管理 ⑥施設修繕	・H18年度から指定管理者制度を導入。ケイマンゴルフ場からパークゴルフ場へ変更。H22年度にパークゴルフ場増設、グラウンドゴルフ場新設。 ・H29年度の組織機構改革によって、総合センター事業管理課から産業観光部産業施設課に集約、所管変更した。
---	--

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 利用者数	人	17,016	25,970	26,876	27,000
イ 内スポーツ施設利用者数	人	8,327	10,361	10,731	11,000
ウ 総体的な売上	千円	12,248	21,599	21,033	22,000
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【指定管理料】26,957千円	国庫支出金	千円			266	
【工事請負費】1,292千円	県支出金	千円				
【委託料】67千円(指定管理料を除く)	地方債	千円				
【手数料】22千円	その他	千円	4,500		1,000	
	一般財源	千円	30,019	29,271	27,072	27,335
	事業費計	千円	34,519	29,271	28,338	27,335

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	指定管理者により適切な施設運営及び管理が行われた。また、牡蠣祭りなどの自主事業も好評であり、利用者数の増加につながっている。
② 事業実施するうえでの課題	施設は指定管理者が適切に維持しているが、開設から30年が経過し老朽化への対応が求められている。
③ 課題解決に向けた改革改善等	随時応急対応を行っているが、規模が大きくなり応急対応で対処できる範囲を超えてきている。施設の整理を行ったうえで、目的に応じた大規模改修が必要。

事務事業名 大東農村環境改善センター管理事業		所属部 産業観光部	所属課 産業観光総務課
総合計画体系	施策名 <11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G 産業観光総務グループ	課長名 吉野 聡
	基本方針 <033>豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名 難波透	電話番号 40-1093 (内線) 2422
	重点テーマ 重点テーマ外	会計 課 大事業 0 1 3 0 0 1 項 目 中事業 0 5 1 5 2 4	大事業名 農業施設管理事業 中事業名 大東農村環境改善センター管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①市民 ②市外からの入込客	①②利用できる
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	雲南市の農業経営及び農村生活の改善合理化と市民の明るく豊かな文化生活、教養の向上と健康の増進並びに新しい農村の地域社会づくりのため設置した施設。 温泉、大集会室、会議室、農事研修室、調理実習室、娯楽室等の施設管理運営 ・指定管理業務・借地料支払 指定管理者 海潮地区振興会 指定管理期間 令和5年4月1日～令和8年3月31日 (3年間)
④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
①指定管理者との年度協定締結 ②指定管理料支払い ③各月利用状況受理 ④モニタリング実施	・H20年度まで大東健康ランドゆとりの里、大東ふれあいパーク、憩いの家「かじか荘」、大東農村環境改善センター(桂荘)の4施設を指定管理で運営していたが、ゆとりの里とかじか荘を閉鎖し、大東農村環境改善センター(桂荘)に統合した。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 入湯者数	人	61,773	77,505	83,336	84,000
イ 入浴券販売額	千円	10,767	12,210	14,369	13,500
ウ 回数券販売額	千円	7,095	8,141	14,364	8,000
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【指定管理料】10,992千円 【使用料及び賃借料】113千円 【合計】11,105千円	国庫支出金	千円			1,801	930
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	11,426	10,105	9,304	10,289
	事業費計	千円	11,426	10,105	11,105	11,219

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	令和4年度は、レジオネラ菌の検出等により再び6万人台に落ち込んだが、引き続きの営業努力により令和5年度は7万人台後半まで利用者数を大きく増やした。 令和6年度には8万人台を超え、コロナ禍以前の入浴者数と同等まで回復した。また、改装(平成24年)後の入浴者が100万人を超えた。
② 事業実施するうえでの課題	施設の設計の際の利用数を上回る利用者(日に200人程度の想定に対して平均250人程度の利用)があることから、温水器等の設備の消耗が早い。
③ 課題解決に向けた改革改善等	必要なものから随時応急修繕により対応しているが、設備更新の際には実態に合った規格の設備導入が必要。

総合計画体系	事務事業名	健康の森管理事業	所属部	産業観光部	所属課	産業観光総務課
	施策名	〈11〉みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G	産業観光総務G	課長名	吉野 聡
	基本方針	〈033〉豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名	飯石陽一	電話番号	40-1093 (内線) 2422
	重点テーマ	重点テーマ外	予算科目	会計 013001 科目 101002	大事業名	林業施設管理事業 中事業名 健康の森管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①市民 ②市外からの入込客	①②安全に利用できる
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	林業生産機能と保健教養機能との調和を図り、もって住民の健康増進と福祉の向上に資するため設置した施設。 管理棟、バンガロー、創作研修施設、クラブハウス、休憩施設、教養休憩施設、炊事棟、東屋等の施設管理運営 指定管理者: 雲南都市開発株式会社 期間: 令和6年4月1日~令和9年3月31日(3年間)
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
①指定管理者との基本協定及び年度協定締結 ②指定管理料支払い ③各月利用状況報告受理 ④モニタリング実施 ⑤電柱共架料支払い ⑥施設解体工事(遊具撤去) ⑦施設修繕(照明設備)	安全面等の緊急を要する修繕を優先的に実施するとともに、必要設備(キャンプ場AC電源増設等)の整備を実施

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 市内の宿泊者数	人	28,101	28,418	21,757	37,317
イ 入込客数	人	9,341	9,153	9,130	10,000
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【指定管理料】11,521千円 【工事請負費】1,155千円 【修繕費】29千円 【賃借料】26千円	財源内訳	千円			190	176
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円		1,900		
	その他	千円	15	15	1,170	15
	一般財源	千円	11,598	12,090	11,371	12,258
	事業費計	千円	11,613	14,005	12,731	12,449

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	新型コロナが発生した令和2年度に利用者数が激減したが、屋外活動の需要が高まり令和3年、4年度利用状況が好転した。しかし、コロナ禍でおきたキャンプブームが落ち着き利用者数は減少傾向となっている。施設の老朽化が課題であるが、他と比較し安価な料金と指定管理者の適切な管理により減少傾向とはいえ利用は多い施設となっている。
② 事業実施するうえでの課題	施設の老朽化が著しい。また、一部のトイレが単独槽のため水洗化ができていない。
③ 課題解決に向けた改革改善等	老朽化した施設、設備等改善を要する箇所が多々ある。安全性や利便性を考慮し計画的に修繕や更新を行っていく必要がある。

総合計画体系	事務事業名	宿泊・観光消費喚起物価高騰支援事業	所属部	産業観光部	所属課	観光振興課
	施策名	〈11〉みんなのたからを誇るまち(観光／ブランディング)	所属G	観光振興グループ	課長名	高橋 司
	基本方針	〈033〉豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名	桑原 真由美	電話番号	0854-40-1054 (内線)
	重点テーマ	重点テーマ外	予算科目	会計 013550 科目 051019	大事業名	新型コロナウイルス感染症・物価高騰対策事業
					中事業名	宿泊・観光消費喚起物価高騰支援事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市内外の人、観光客	雲南市を訪れ宿泊及び観光消費をしてもらう。

③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)

事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R6 年度 ~ R7 年度)	物価高騰による観光控えに対し、消費者の観光意欲を高め市内宿泊者の確保及び観光消費額拡大を図るため、市内宿泊者を対象に「プレミアム付うんなん観光券」を販売した。 販売期間: 令和6年10月12日～令和7年1月5日 【財源】物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金
---	---

④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
市内宿泊施設で宿泊される方を対象に、宿泊時及び当該旅行期間中に市内観光施設や道の駅などで使用できる観光券5,000円分を3,000円で販売。1人あたり2枚まで購入可。 【販売枚数】13,376枚(3,344セット) 【宿泊利用、観光施設等換金数】12,565枚(500円/枚)	令和4年度はコロナ禍で影響を受けた宿泊施設等の支援として、観光券4,000円分を2,000円で販売し宿泊喚起及び誘客促進等を促した。販売状況が好評だったことから、内容を見直したうえで宿泊閑散期対策として観光券増刷及び販売期間延長を行った。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 観光入込客数	万人	100.0	107.3	106.5	112.0
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
委託料 7,979千円 【財源】物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金	財源内訳	千円			7,979	11,870
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円				
	事業費計	千円	0	0	7,979	11,870

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	観光券の販売・利用が一定の施設に偏る傾向が見られた。販売期間も短く思うように販売数が伸びなかったが、観光券の利用率は93.94%と高く、道の駅や温浴施設などの集客・売上に効果があった。また、利用者からは「利用期間が短すぎる」「飲食店でも使えるようにしてほしい」など多くの要望が寄せられた。
② 事業実施するうえでの課題	宿泊客への販売、説明など宿泊事業者の負担が大きく、簡素化してほしいとの声が多かった。また、宿泊事業者のメリットが感じられない、と販売協力が得られない事業者も一部見受けられた。
③ 課題解決に向けた改革改善等	宿泊事業者や観光事業者、また利用者の意見も聞きながら、より効率的及び効果的な観光消費の促進に取り組む。今後も国や県の対応等を注視しながら、宿泊事業の機運醸成に向けた支援なども行う。

事務事業名 日本一さくらのまちづくり事業		所属部 産業観光部	所属課 観光振興課
総合計画体系	施策名 <11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G 観光振興グループ	課長名 高橋 司
	基本方針 <033>豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名 藤原 歩優	電話番号 0854-40-1054 (内線)
	重点テーマ 重点テーマ外	会計 科目 013501 項 目 051503	大 事 業 名 観光振興総務管理事業 中 事 業 名 日本一さくらのまちづくり事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
雲南市の景観 観光客	雲南市の花である「桜」の保護育成活動により美しい景観を守り、創造する。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	日本さくら名所100選「斐伊川堤防桜並木」を有し、市の花が桜である雲南市において、市内各地の桜は、かけがえのない共有の財産であるとともに、重要な観光資源である。市民が桜を愛し、桜の植栽・保育を通じて活力あるまちづくりを目指すべく、桜守(桜の管理専門職)の配置等を行う。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
① 桜守公用軽トラック保守管理 ② さくらまつりPR(ポスター及びチラシ作成等) ③ 桜に関する問合せ、視察受入対応 ④ 桜保育管理(外部委託) ⑤ 雲南市さくらのまち観光振興協議会との連携	令和2年度から雲南市さくらの会で担っていた桜の管理業務を市役所観光振興課が引き継ぎ、委託先と市が直接契約を結ぶこととなった。桜の保全管理継続のため、桜守を公募し令和5年9月から2名体制とした。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (実績)	R7年度 (計画)
ア 桜本数(R6年度から桜守の管理本数のみ計上)	本	109,180	109,180	10,115	10,115
イ 観光入込客数	万人	100.0	107.3	106.5	112.0
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
需用費 350千円 役務費 100千円 委託料 14,657千円 備品購入費 251千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円	11,355	14,182	15,358	17,719
	一般財源	千円				
	事業費計	千円	11,355	14,182	15,358	17,719

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	桜保全管理業務を外部委託し、剪定作業、薬剤散布作業、肥料製造・施肥作業等の作業を行った。2024雲南市桜まつりでは、市内外の多くの方に観賞してもらえる機会となり、期間中の入込客数については約8万7千人となった。
② 事業実施するうえでの課題	雲南市全域へ桜のまちづくりを浸透させていく必要がある。現在の財源にも限りがあるため、新たな財源を確保する必要がある。将来的に継続して桜の保育管理を行ううえで、桜守の人材確保・育成が必要である。
③ 課題解決に向けた改革改善等	桜守の業務条件等の見直し、体制の継続を検討する。また、新たな財源の確保について検討する。

総合計画体系	事務事業名	地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化支援事業	所属部	産業観光部	所属課	観光振興課
	施策名	〈11〉みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G	観光振興グループ	課長名	高橋 司
	基本方針	〈033〉豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名	川西 史明	電話番号	0854-40-1054 (内線)
	重点テーマ	重点テーマ外	予算科目	会計 013501 科目 051507	大事業名	観光振興総務管理事業 中事業名 観光地再生・観光サービス 高付加価値化支援事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市内外の人、観光客	雲南市を訪れ宿泊及び観光消費をしてもらう。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R5 年度 ~ R6 年度)	新型コロナウイルス感染拡大の影響等で厳しい状況におかれている宿泊事業者等が積極的に観光庁の事業に取り組めるよう地域経済の回復に向け島根県と協調して支援する。
④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
令和5年度から継続して、事業採択となった市内3施設を島根県と協調して支援した。	観光地経営を進めるための地域計画を雲南市と奥出雲町で作成して申請を行い、観光庁の指摘を受け計画を修正して令和5年12月8日に採択となった。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 観光入込客数	万人	100.0	107.3	106.5	112.0
イ 観光消費額	億円	20.4	23.7	24.4	26.4
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
・負担金補助及び交付金27,333千円	国庫支出金	千円		35,555	13,667	
【財源】 ・観光地再生・観光サービス高付加価値化事業補助金 ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	財源内訳 県支出金	千円		35,555	13,666	
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円				
	事業費計	千円	0	71,110	27,333	0

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	観光庁の令和5年度、令和6年度の事業採択を受け、県と協調して補助金を交付した。市内3施設は令和6年12月末に改修事業を完了した。
② 事業実施するうえでの課題	計画エリアが広域であるため、関係する施設を結ぶ周遊コースを設定する必要がある。新設された宿泊施設の利用に向けて情報発信を行い、安定的な誘客を進める必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	観光協会と連携し、宿泊施設の利用を盛り込んだ観光タクシープランなどの旅行商品の造成を進める。来訪者のアンケートを基に、宿泊施設の運営改善を行うとともに、旅行者のニーズに即した旅行商品を検討する。

総合計画体系	事務事業名	うんなん観光ネットワーク協議会運営事業	所属部	産業観光部	所属課	観光振興課
	施策名	〈11〉みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G	観光振興グループ	課長名	高橋 司
	基本方針	〈032〉広域観光やインバウンド(訪日外国人旅行)の推進に取り組みます。	担当者名	藤原 歩優	電話番号	0854-40-1054 (内線)
	重点テーマ	重点テーマ外	予算科目	会計 013501 款 項 目 051509	大事業名	観光振興総務管理事業 中事業名 うんなん観光ネットワーク事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
観光客	雲南地域の認知度を向上させ、観光に来てもらう。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (R6 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	雲南地域の3市町(雲南市、奥出雲町、飯南町)で組織。観光分野において、ふるさと資源を活用した雲南地域一体となった広域観光振興、情報発信による地域イメージの向上等を図る。
④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
・令和3年度からスタートした地域横断型の英語ガイド養成(モニターツアー、地域事業者を交えた研修事業等) ・雲南地域PR番組「美肌県島根へ行くin奥出雲エリア」をCATV及びYoutubeで継続配信 ・雲南圏域パンフレットの作成・増刷、観光施設への配架	今後構成市町が発展的に広域観光事業に取り組むため、基金を取り崩して市町が有効活用できるよう、令和5年度からうんなん観光ネットワーク協議会の事務局を雲南市へ引き継いでいる。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 観光入込客数	万人	100.0	107.3	106.5	112.0
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
令和6年度から一般会計に計上 報酬1,897千円、職員手当等702千円、 報償費11千円、旅費88千円、需用費 3,642千円、役務費1,160千円、委託料 900千円、使用料504千円、負担金230千 円	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円			9,134	6,150
	一般財源	千円				
事業費計	千円		0	0	9,134	6,150

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	・YoutubeをはじめSNSでの情報発信や観光パンフレットの配架により、県内外の幅広い層に対して雲南圏域の魅力を発信し、地域イメージの向上を図った。 ・地域横断型の英語ガイドを養成し、英語圏の旅行者に対する受入体制を充実した。
② 事業実施するうえでの課題	県外からの観光客は広域的な視点で訪れるため、観光誘客での広域連携はますます重要視されている。一方、各市町の事業と重複するものも生じていることから、広域連携で実施すべき事業の精査が必要と考える。 協議会についても、民間主体の事業体に移行できるよう関係市町との調整が必要である。
③ 課題解決に向けた改革改善等	協議会の組織の在り方について、引き続き構成市町と検討する。また、構成市町が重複して加盟する広域観光を目的とした組織(斐伊川サミット等)が行う事業と統合できるものと、協議会独自で行うものとの差別化が必要である。

総合計画体系	事務事業名	雲南市観光協会補助金	所属部	産業観光部	所属課	観光振興課
	施策名	〈11〉みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G	観光振興グループ	課長名	高橋 司
	基本方針	〈033〉豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名	桑原 真由美	電話番号	0854-40-1054 (内線)
	重点テーマ	〈0032〉豊かな自然環境、歴史文化、食や人の魅力をいかした観光まちづくりの推進	予算科目	会計 課 大事業 0 1 3 5 0 1 項 目 中事業 0 5 1 5 7 3 中事業名 観光振興総務管理事業 雲南市観光協会補助金	大事業名	観光振興総務管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
観光客	雲南市に観光に訪れてもらう
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H18 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	合併前まで各町村で組織していた観光協会を統合し、平成18年7月に「雲南市観光協会(本会)」を設立。官民協力協働による観光振興事業を推進。各町村の観光協会は支部組織とし、既存事業を実施。平成27年4月に一般社団法人としての組織化に併せて各支部組織を解散した。本会は、観光振興を推進する中心的な役割を担う団体であり、協会会員や観光関係団体などとの連絡・調整を図りながら、観光地域づくりや観光情報の発信、誘客への取り組み等の事業を実施している。
④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
一般社団法人雲南市観光協会への補助金交付及び円滑な運営の支援。 市と観光協会の組織一元化に伴う事務所改修。	観光施策をより一体的に行うために法人化するとともに、木次駅内へ事務所を移転、令和2年3月から休日の職員配置を始めた。令和4年1月から令和6年3月までJR西日本の派遣職員を受け入れ体制強化を図り、令和4年4月からは木次駅内事務所を観光案内所とし、事務所機能を移転した。広域観光推進やマーケティング強化のため令和6年度は市職員を派遣。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (実績)	R7年度 (計画)
ア 観光入込客数	万人	100.0	107.3	106.5	112.0
イ 観光ガイド利用者数	人	1,741	1,331	1,148	1,400
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)	
補助金50,732千円 (通常分)46,991千円 (事務所改修分)3,741千円	財源内訳	国庫支出金	千円	1,813		7,128	
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円	9,229	3,596	6,952	10,324
		一般財源	千円	34,419	39,574	43,780	31,939
	事業費計	千円	45,461	43,170	50,732	49,391	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	観光案内や旅行商品の造成、観光ガイドの育成など観光客のニーズに対応できるよう事業者及び関係機関と連携をしながら誘客事業を実施している。令和6年度は観光庁補助事業を活用し、神話をテーマにした滞在プログラム造成や新メニューの開発を行った。また、市内事業者との連携機能強化や案内体制の充実を図るため、新たな事務所となる施設の改修を行った。
② 事業実施するうえでの課題	限られた人員と予算の中で、より効果的な事業が展開できるように進めていく必要がある。また、広域観光やインバウンド等の推進に対し、自治体を越えた他団体との連携強化が求められる。
③ 課題解決に向けた改革改善等	<ul style="list-style-type: none"> 観光資源を生かし民間事業者を巻き込んだ観光による経済循環を進めるため、市と観光協会の事務所を一元化して組織力を高める。 運営業務の事務効率化、プロパー職員の専門性強化が必要。 他自治体の観光協会間での連携事業を実施する等、広域観光の推進に取り組む必要がある。 各種団体とのネットワーク構築、会員との連携による旅行商品開発など旅行業を生かした事業展開が必要。

総合計画体系	事務事業名	観光施設管理事業	所属部	産業観光部	所属課	産業観光総務課
	施策名	〈11〉みんなのたからを誇るまち(観光／ブランディング)	所属G	産業観光総務G	課長名	吉野 聡
	基本方針	〈033〉豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名	飯石陽一	電話番号	40-1093 (内線) 2422
	重点テーマ	重点テーマ外	予算科目	会計 0 1 3 5 0 1 項 目 0 5 2 0 0 1	大事業名 中事業名	観光施設管理事業 観光施設管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①市内外からの入込客 ②管理対象物件	①観光環境の充実 ②公共施設等の適正な管理
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	市内観光施策施設の維持管理 大東:みはらし広場、八雲山文学碑の径、ふれあいパーク、ゆとりの里ノ木次:駐車場、天が淵公園、おろち公園、八本杉公園、長者の福竹ノ三刀屋:城址公園、雲見滝、観光公衆トイレノ吉田:たたら山内トイレ、駐車場ノ掛合:城山公園 等
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
①光熱水費等経常経費の支払い ②施設用地借地料の支払い ③管理業務委託契約締結及び委託料支払い ④公用車管理	・各総合センター事業管理課で行ってきた維持管理業務をH28年度から産業施設課へ移管。 ・H30年度から修繕費について別事業で管理。 ・R4年度に新型コロナ対策として市内各施設に自動体温計を購入及び配備。 ・R6年度に公共施設民間譲渡のため備品撤去等実施。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (実績)	R7年度 (計画)
ア 観光入込客数	万人	99.9	107.3	106.5	112.0
イ 観光消費額	百万円	2,128	2,375	2,440	2,640
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【検査料】14千円【使用料】64千円 【委託料】5,496千円【保険料】8千円 【賃借料】1,770千円【手数料】1,261千円 【消耗品費】523千円【光熱水費】2,001千円 【燃料費】230千円【郵券料】3千円	国庫支出金	千円	5,197			
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	8,581	8,828	11,370	9,197
	事業費計	千円	13,778	8,828	11,370	9,197

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	施設利用において必要な維持管理を行った。
② 事業実施するうえでの課題	業務委託等により最低限の維持管理は行っているが、樹木の伐採や施設の老朽化等の諸課題がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	事業成果としては観光資源を守るための最低限必要な対応にとどまっている。より良い観光環境の整備のため、業務委託等全域的な管理方法の検討が必要。

事務事業名 木次健康温泉センター管理事業		所属部 産業観光部	所属課 産業観光総務課
総合計画体系	施策名 <11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G 産業観光総務G	課長名 吉野 聡
	基本方針 <033>豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名 飯石陽一	電話番号 40-1093 (内線) 2422
	重点テーマ 重点テーマ外	会計 科目 0 1 3 5 0 1 項 目 0 5 2 0 1 1	大事業名 観光施設管理事業 中事業名 木次健康温泉センター管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
① 市民 ② 市外からの入込客	①②利用できる
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	地域住民の健康、福祉の向上、地元産品の販売及び地域活性化を図るため設置した施設。温泉施設、和室等の施設管理運営 指定管理者: 雲南都市開発株式会社 期間: 令和6年4月1日~令和9年3月31日(3年間)
④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
① 指定管理者との基本協定及び年度協定締結 ② 指定管理料支払い ③ 各月利用状況報告受理 ④ モニタリング実施 ⑤ 施設用地借地料支払い ⑥ 施設改修工事(火災報知設備更新)	指定管理者と連携を図り、大規模な施設や多数の設備機器の管理を行うことにより安定した運営に努めている。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 入込客数	人	84,172	95,470	96,197	100,000
イ 施設利用料(減免後)	千円	34,307	39,652	40,667	42,000
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【指定管理料】24,209千円 【手数料】495千円 【工事請負費】2,202千円 【用地借上料】162千円	国庫支出金	千円			7,054	4,138
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円	600			
	一般財源	千円	23,278	21,862	20,014	21,860
	事業費計	千円	23,878	21,862	27,068	25,998

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	市内有数の大規模温泉施設として市内外から多くの集客がある。自主事業により定期的なイベントを開催され集客につなげている。
② 事業実施するうえでの課題	施設の老朽化が進行している。また、温泉設備機器についても交換や追加等により複雑化していることから一体的な更新を要する。月毎に薬草湯等を企画し自主事業による経営努力をされているが、集客率向上のためこれまでにない試みも必要。
③ 課題解決に向けた改革改善等	老朽化を原因とする故障や破損が多発しており、大規模な施設改修や機器更新を行う必要がある。

事務事業名 波多温泉管理事業		所属部 産業観光部	所属課 産業観光総務課
総合計画体系	施策名 <11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G 産業総務G	課長名 吉野 聡
	基本方針 <033>豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名 平林和也	電話番号 40-1093 (内線) 2422
	重点テーマ 重点テーマ外	会計 課 大事業 0 1 3 5 0 1	大事業名 観光施設管理事業
		科目 項 目 中事業 0 5 2 0 2 0	中事業名 波多温泉管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①市民 ②市外からの入込客	①②利用できる
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	市民の健康増進、交流の場及び憩いの場として設置した施設。 温泉、休憩所、食堂、加工室、事務室、機械室等の施設管理運営 ・指定管理業務 ・リース料支払 <指定管理者制度導入施設> 指定管理者 波多コミュニティ協議会 指定管理期間 令和6年4月1日～令和9年3月31日(3年間)
④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
①指定管理者との基本協定及び年度協定締結 ②指定管理料支払い ③各月利用状況報告受理 ④モニタリング実施	H21年度～H22年度の経済対策で浄化槽修繕、泉源ポンプ更新、休憩室増築/H24年度にバイオマスチップボイラー整備/H31(R元)年度に浴槽用ろ過器取替更新/R3年度にバイオマスボイラー燃焼炉修繕及びストックサイロ搬出改良/R5年度にラインポンプケーシング、ストックサイロチップ払出機修繕/R6年度に熱源ポンプ及び給湯ポンプ修繕

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (実績)	R7年度 (計画)
ア 入湯者数	人	21,282	25,178	26,303	27,000
イ 入湯料	千円	5,042	5,879	6,447	9,400
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【指定管理料】14,244千円 【修繕費】715千円 【合計】14,959千円	財源内訳	国庫支出金	千円		1,381	
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	10,947	11,061	14,244
		事業費計	千円	10,947	14,959	14,244

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	指定管理者により適切な施設運営及び管理が行われた。また、自主事業も好評であり、利用者数の増加につながっている。
② 事業実施するうえでの課題	運営上の問題は特にない。 今後は修繕費等の確保を定期的実施し、施設運営上支障のないよう配慮する必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	バイオマスチップボイラーについては、指定管理者が適切に運用できるよう機器のトラブル等に迅速に対応していく必要がある。

総合計画体系	事務事業名	観光施設整備事業	所属部	産業観光部	所属課	産業観光総務課
	施策名	〈11〉みんなのたからを誇るまち(観光／ブランディング)	所属G	産業観光総務G	課長名	吉野 聡
	基本方針	〈033〉豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名	飯石陽一	電話番号	40-1093 (内線) 2422
	重点テーマ	重点テーマ外	予算科目	会計 0 1 3 5 0 2 項 目 0 5 2 0 0 4	大事業名	観光施設整備事業
					中事業名	観光施設整備事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①市内外からの入込客 ②管理対象物件	①観光環境の充実 ②公共施設等の適正な管理
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	市内観光施策施設の修繕、更新、撤去等
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R6年度実績(R6年度に行った主な活動) 市内観光施設の更新、撤去、設備品の購入 ①改修箇所等調査 ②改修費用積算 ③契約 ④完了検査 ⑤支払い事務 【対象施設】掛合の里(緑地公園、グリーン掛合)、おろち湯ったり館、海潮温泉貯湯槽、みとや深谷温泉、道の駅おろちの里	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) ・H27年度までは各総合センター事業管理課で施設維持管理を行ってきたが、組織機構改革によりH28年度に産業施設課に所管替えとなった。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 観光入込客数	万人	99.9	107.3	106.5	112
イ 観光消費額	百万円	2,128	2,375	2,440	2,640
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【工事請負費】28,466千円	国庫支出金	千円				
【委託料】495千円	県支出金	千円				
【備品購入費】598千円	地方債	千円			9,400	24,800
【地方債】合併特例債	その他	千円				3,069
	一般財源	千円	0	517	1,690	6,008
	事業費計	千円	0	9,917	29,559	6,008

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	市内観光施設について、安全性や緊急性、必要性等の観点から優先度を決定し、修繕や更新、場合により撤去を行い施設を整備した。
② 事業実施するうえでの課題	いずれの施設も老朽化が著しく、修繕等について事後対応となっている。事前の計画的な修繕や更新を行っていくことが望ましい。
③ 課題解決に向けた改革改善等	市内観光施設の整備事業であり、観光振興計画等との整合性を図りながら計画的な改修等を行う。

事務事業名 観光施設整備事業		所属部 産業観光部	所属課 観光振興課																			
総合計画体系	施策名 <11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G 観光振興グループ	課長名 高橋 司																			
	基本方針 <033>豊かな里山の環境や生活文化をいかした観光まちづくりに地域や多様な実践者とともに取り組みます。	担当者名 桑原 真由美	電話番号 0854-40-1054 (内線)																			
	重点テーマ 重点テーマ外	<table border="1"> <tr> <td>会計</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>大</td> <td>事業名</td> <td>観光施設整備事業</td> </tr> <tr> <td>科目</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>中</td> <td>事業名</td> <td>観光施設整備事業</td> </tr> </table>	会計	0	1	3	5	0	2	大	事業名	観光施設整備事業	科目	0	5	2	0	0	4	中	事業名	観光施設整備事業
会計	0	1	3	5	0	2	大	事業名	観光施設整備事業													
科目	0	5	2	0	0	4	中	事業名	観光施設整備事業													

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市内外の人、観光客	雲南新観光に訪れてもらう
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R5 年度 ~ R7 年度)	令和3年7月の豪雨災害により損傷を受けた、下熊谷橋(願い橋)の塵避け修繕工事 ※下熊谷橋は、観光資源としての価値が高まっていることなどから、近隣自治会等からは早期の修繕が切望されており、原形復旧に関する地域要望が令和4年6月に提出された。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
願い橋塵避け改修工事(業務委託)	工事担当部局である建設部を通して国や県等との協議及び情報共有を行っている。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 観光入込客数	万人	100.0	107.3	106.5	112.0
イ 観光消費額	億円	20.4	23.7	24.4	26.4
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)	
・工事請負費 46,464千円(前払金分) ※令和6年度予算のうち70,536千円は次年度へ繰越 【財源】地方債: 合併特例債	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円		3,000	44,200	67,000
		その他	千円		158	2,264	3,536
		一般財源	千円				
	事業費計	千円	0	3,158	46,464	70,536	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	塵避け本体の修繕工事を計画的に進めることで、景観の保全や通行の安全性の向上に加え、観光入込客の増加が見込まれる。また、堆積物の撤去による治水上の問題点について、一定程度の改善が見込まれる。
② 事業実施するうえでの課題	願い橋については、以前より治水上の観点から国土交通省より適正な対応を求められており、橋の存続について協議を重ねている。 現在、塵避けの損傷(倒壊)により河川内に流木が堆積しており、治水上や通行する際の安全上の問題が生じている。また、景観保全・観光振興の観点からも早期に対応する必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	他自治体において、豪雨等で被災した河川工作物については、河川管理者と協議を行ったうえで適正管理が進められていることから、工事担当部局である建設部を通して国や県等との情報共有を密に行い、適正に事業を進める。

総合計画体系	事務事業名	道の駅さくらの里きすき活性化整備事業	所属部	産業観光部	所属課	産業観光総務課
	施策名	<11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G	産業観光総務G	課長名	吉野 聡
	基本方針	<031>神話やたたらなど雲南独自の価値や魅力をいかし、ブランド力を高めます。	担当者名	加藤雄二	電話番号	0854-40-1093 (内線) 2431
	重点テーマ	<0034>観光施設の魅力化	予算科目	会計 013502 項 目 052003 大 事 業 名 観光施設整備事業 中 事 業 名 道の駅さくらの里きすき活性化整備事業		

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
道の駅の利用者、運営者(指定管理者: 駅長)、登録者(雲南市)	道の駅の活性化と道路利用者の利便性・防災機能向上
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R5 年度 ~ R7 年度)	道の駅さくらの里きすき隣接地の用地造成を行い、公園、駐車場、防災設備を設置するとともに産直市たんびにきて家の改修を行う。これによって道の駅の活性化ならびに防災機能を強化する。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R6年度実績(R6年度に行った主な活動) ・公園造成実施設計(用地測量含む)の実施 ・公園施設建築実施設計の実施 ・公園造成用地の購入 ・土地収用法に伴う事業認定申請の実施と認定 ・たんびにきて家改修実施設計の実施	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) R3年度の食の幸発信推進事業の見直し方針に加え、コロナ禍等の影響による道の駅等の経営不振が発生したことにより、観光施設の活性化が大きな命題となった。本事業はそれに対する対策の一つである。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 道の駅さくらの里きすき来場者	人	142,025	168,723	170,381	172,000
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
【R5繰】13,453千円/委託13,150千円(造成設計、建築設計)、役務304千円 【R6】60,248千円/用地費57,833千円、委託2,385千円(建築設計他)、他30千円 [地方債] 緊急防災減災事業債、過疎債	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円			73,300	137,700
	その他	千円				5,000
	一般財源	千円			401	42
事業費計	千円		0	0	73,701	142,742

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	○議会で議決を経て必要な土地を購入ができた。また、土地収用法の事業認定申請を行い、認定を受けることができたため、土地売買契約もスムーズに実施することができた。 ○各種実施設計・調査の実施完了
② 事業実施するうえでの課題	○事業費の高騰。たんびにきて家は建築基準法準拠のため事業費が膨らむことになった。 ○国との土地交換の実施(申請等手続き、工事の実施) ○施設完成後の道の駅活性化に資する取組みの充実、評価方法。適切な維持管理の実施。
③ 課題解決に向けた改革改善等	○建設部の協力を得て、計画的な工事発注を行う。 ○国への各種申請等手続きを遅滞なく実行し、国との土地交換を進める、R7年度内に事業を終了する。 ○全体予算等を勘案し、遊具を決定する。決定に際して子育て関係者の意見を聞く機会をつくる。 ○R8年度からの運営ができるよう条例変更や管理方法の確定など必要事項を決める。

事務事業名 菅谷たたら山内防災整備事業		所属部 教育委員会	所属課 文化財課
総合計画体系	施策名 <11>みんなのたからを誇るまち(観光/ブランディング)	所属G 文化財・文化振興グループ	課長名 角田 徳幸
	基本方針 <031>神話やたたらなど雲南独自の価値や魅力をいかし、ブランド力を高めます。	担当者名 志賀 崇	電話番号 0854-40-1075 (内線) 2231
	重点テーマ 重点テーマ外	会計 015001 科目 254509	大事業名 文化財施設整備事業 中事業名 菅谷たたら山内防災整備事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
・国指定重要有形民俗文化財「菅谷たたら山内」の各施設	・避雷設備及び消火設備の整備
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R5 年度 ~ R8 年度)	・「菅谷たたら山内」の各施設を落雷や火災から保護するため、避雷設備及び消火設備を整備する。 R5: 避雷設備実施設計 R6: 避雷設備・消火設備実施設計 R7: 避雷設備新設工事 R8: 消火設備新設工事
④ 主な活動 R6年度実績(R6年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
・避雷設備実施設計 ・消火設備実施設計	・事業が円滑に進むよう、文化庁及び島根県と随時協議を行っている。

(2) 事務事業の成果指標

成果指標	単位	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(実績)	R7年度(計画)
ア 実施設計進捗率(避雷設備)	%	※	25	100	100
イ 工事進捗率(避雷設備)	%	※	0	0	100
ウ 実施設計進捗率(消火設備)	%	※	0	35	100
エ 工事進捗率(消火設備)	%	※	0	0	0

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R6年度決算)	② コストの推移	単位	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(決算)	R7年度(計画)
消耗品費: 32千円 事業委託: 14,849千円	国庫支出金	千円		1,400	9,672	25,311
【財源内訳】 過疎債: 3,900千円	県支出金	千円		350	1,302	3,407
	地方債	千円		1,000	3,900	10,100
	その他	千円				
	一般財源	千円		53	7	142
※避雷設備新設工事(工事請負費: 29,920千円)をR7年度へ繰越	事業費計	千円	0	2,803	14,881	38,960

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	・国指定重要有形民俗文化財「菅谷たたら山内」が今後も適切に保存されるよう、避雷設備及び消火設備の実施設計を行った。
② 事業実施するうえでの課題	・計画事業期間内に事業完了できるように調整を行っているが、入札不調等の影響により、計画にやや遅れが生じている。 ・事業内容の精査を行い、事業費の縮減を図る必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・事業の進捗状況の確認を行い、菅谷たたら山内保存整備審議会や文化庁、島根県と随時協議を行っている。